

医療・急性期(在宅復帰)

大腿骨頸部骨折術後早期から公共交通機関を利用した外出に向けた支援

急性期リハ事例	年齢:84歳 性別:女性 疾患名:右大腿骨頸部骨折	要支援2
	<p>【介入までの経緯】病前は買い物や友人宅など活発に外出していた。屋外での転倒による受傷で骨接合術を受けたが、疼痛が治まらず、外出機会はほぼ皆無だった。受傷半年後、右大腿骨人工骨頭置換術が施行され、術後翌日より作業療法が開始となった。</p> <p>【本人の生活の目標】本人:電車に乗って買い物に行きたい。 家族:身の回りのことができるようになってくれればよい。</p>	

	開始時(術後1週間目)	中間(術後3週間目)	終了(術後5週間目)
ADL・IADLの状態	<ul style="list-style-type: none"> ○動作時の疼痛やバランスの不安定さから歩行は難しく、病棟内の移動は車椅子を使用していた。 ○車椅子の移乗は見守りを必要としていた。 ○下衣の着脱に介助が必要で、トイレ動作にも援助が必要だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○病棟内でT字杖歩行が自立し、連続300mほど歩けるようになった。 ○トイレや更衣動作が自立した。 ○20cmほどの段差は手すりを使用することで可能になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○屋外の歩行はT字杖を使用し、安定した。 ○自宅からバス、電車を乗り継いで買い物に行くことが可能になった。
生活行為の目標	○病棟内でのセルフケアが自立できる。	○バス、電車等の公共交通機関を利用し買い物に行ける。	<p>【考察】受傷後外出を経験しておらず、自信を無くしており、疼痛も治まらないのではないかとの不安もあったため、退院に向けた練習はあまり積極的でなかった。しかし、担当者との話し合いの中で、外出は自分にとって大事なことだと気づき、また具体的な行動目標が立てられたため意欲的に取り組むことができ、目標が達成できた。</p>
介入内容	<ul style="list-style-type: none"> ○関節可動域練習 ○下肢筋力向上練習 ○立位バランス練習 ○日常生活動作練習(下衣の着脱、トイレ) 	<ul style="list-style-type: none"> ○関節可動域練習 ○下肢筋力向上練習 ○バスの昇降練習 ○応用歩行練習(スロープ昇降) 	



結果: 自宅からバス、電車を乗り継ぎ、買い物に行くことができた。退院して1か月後には県外の大都市へ買い物に行ってきたとの報告があった。本院より信号をより早く渡りきる必要があるとのことで通所リハに移行した。

課題: 生活行為の目標を継続できるよう医療、介護分野のより密な連携が必要と感じられた。